平成24年度　早稲田中学校（国語）　解答・解説

解答

一

問1　内外、公私を分けたいという意識。
　　上下、浄不浄を分けたいという意識。
問2　イ　　問3　ウ
問4　エ　　問5　オ
問6　越境　　問7　イ・オ

二

問1　a　温厚　b　異口同音　c　弁解　d　おとしい〔れ〕
問2　沼倉の罪を引き受けること。
問3　自分の部下～験するため
問4　3　ウ　4　イ
問5　ア
問6　人望と勢力をもつ沼倉が、生徒を圧迫し級中に悪い風儀をはやらせるひどい不良ではなさそうだとほっと安心する気持ち。

解説

一　出典は、柏木博の文章。

問1　はじめから難問です。指定部分の要点を読み取り、さらに設問をとらえる必要があります。「玄関で靴を脱ぐことに」「働いている」「しきり意識とはどのようなもの」か、という問であることを確認した上で、「～分けようとする・しきろうとする意識。」などとまとめることを考えます。そして内容を探ります。「外部と内部」、「パブリックな場とその逆（私的な場）」、「屋外と座敷」、「外の汚れと（内の）潔癖」、「上位と下位」、「浄と不浄」などを分けなくてはならない、という意識です。「二点指摘せよ」という問いですから、まとめられるところはまとめて、「パブリックな場である外部と、私的な場である内部とを分けようとする意識」などを考えます。最後に、早稲田の特徴である、短い字数にまとめる作業が必要です。

問2　「そこ」とは「不浄な場所では特別な履き物を履くという感覚が見られるところ」であり、「特別な履き物」が前文の「この履き物」であること、さらにその前文の「高足駄」であることをつかんでから考えます。

問4　これもかなり難しい問題です。「本文において果たしている役割」を考えましょう。

問5　空欄Bの後に、『『畳の上で死にたい』という言葉がある」、「履き物を脱ぐことで浄土に行くことができるのだろう」、「死ぬ時には、履き物を履いていないことが望ましい」とありますので、「生と死」の境界であると読みとることができます。その後、選択肢を吟味します。ウ「天国と地獄」、エ「冥途と浄土」は、両方とも「死」の世界のことです。

問6　これも難問です。3ページの7・8行め、「履き物は、自らの主体性で、ある境界（しきり）を自在に行き来することのできることを可能にするものだ」にまず注目です。したがって答えは、「境界を行き来すること」という内容になるはずです。なかなか見つかりませんが、空欄Bの3行前に「越境」があります。三字以内という指示に惑わされる問題です。

問7　アは「欧米人」ではなく、「日本人」です。ウは「巨大・境に吊す」が誤りです。エは「古くから・一般的」が本文の内容と合いません。

二　出典は、谷崎潤一郎「小さな王国」。

二題めは、難問ではありません。ただし、傍線部と答えの根拠となる本文との距離が長いので、落ち着いた初読が必要となります。

問2・3　最終段落に注目できれば答えられます。罪を「庇う」のではなく、「引き受ける」ことを決心したのです。

問5　「威圧感」以外のもう一つは何か、と考えます。「人望・徳望」の言い換えを考えます。

問6　「ほっと安心する気持ち。」という型を作ってから、その理由を前に入れます。傍線部6を含む段落を整理してまとめましょう。